



各事業所やフロアーに掲示

永 寿 会

虹の通信 第33号

2021年 5月21日

～永寿会永年勤続表彰を終えて～

2年ぶりの虹の通信になります。怠惰やかまけて発信しなかったわけではありませんが心象や思いを表現するには心と精神のエネルギーが必要となり、結構年も取ってきたのでなかなか文章化は出来ませんでした。お許しを。

でも事業の中で懸命に就業している職員の皆さんや永寿会のポリシーは何なのか気になる方もおられますので、最近の脳裏を過ぎったこと等を書いてみます。

去る4月27日「わもっかん」(湘南わもっか保育園隣接施設)にて、永寿会に勤務して10年以上17名、5年以上69名の職員の皆さんに表彰状、感謝状と記念品を贈る式典を行いました。17名の方には列席して頂き、69名の方は各所属長から贈呈を致しました。開所以来、永寿会で働いた職員は多分1000名を超えるだろうと思います。短期間しか居られなかった場合もありますし、体調を壊わされたり、転居された方もおられます。また、懐かしくその風貌が思い浮かぶ職員方々もおります。

組織にとっては長く勤務して頂くことはその人の人格や理念が組織の中に浸透し、色々な面で組織風土が豊かになるので、大変好ましいことと判断しています。

今から18年前の4月、目まぐるしい日々を乗り越え、開所式の後職員全体で写真を撮りましたが、そのメンバーの中で、今私を含めて5名が今も働き続けて頂いています。時代は変わりつつ有り、介護事業では若い新人の入職が大変少なくなりました。

残念なことですが出来るだけ長く仕事に携わって頂きたいと願うばかりです。

さて、1年半近く続くコロナ禍で私達の仕事はエッセンシャルワーカー(社会を支える仕事)と呼ばれ3K職場として揶揄されていましたが、再評価されています。でももっと昔から気づいて欲しかったことです。立憲民主党の枝野代表も医療、介護、保育の仕事はベーシックサービスであり、大事にしたいと言われていますが、社会が大変な時になって解るとはどういうことでしょうか不思議です。

私達はどんな時でも誰にも臆することなく社会の変容を見つめ、知識と技能を磨き活かせるように進んでいきましょう。

以 上